

●THUNDERBIRD® SYBR® qPCR Mixの使用条件 [Qiagen RotorGene]

(1)反応液の調製

以下に、25 μL反応時の調製例を示します。

試薬	25μL反応	最終濃度
滅菌水	X μL	
THUNDERBIRD® SYBR® qPCR Mix	12.5 μL	1x
Forward Primer	7.5 pmol	0.3 μM*1
Reverse Primer	7.5 pmol	0.3 μM*1
DNA溶液	Y μL	
合計液量	25 μL	

*1: 増幅効率が不十分な場合は、プライマー濃度を増やすことで、また非特異反応が発生する場合は、プライマー濃度を減らすことで、反応結果が改善することがあります。
プライマー濃度は、最終濃度0.2~0.6 μMを目安にご検討ください。

(2)PCRサイクル条件設定

ステップ	温度	時間	昇降速度
初期変性	95° C	60秒	最大
PCR (35~40 cycles)	変性 95° C 伸長 60° C*2	5~15秒 10~30秒	最大 最大
(Data Collectionは伸長ステップに設定します)			
融解曲線分析 (Melting / Dissociation Curve Analysis)			

*2: 十分な増幅効率が得られない場合は温度を低めに、非特異的の反応が発生する場合は温度を高めに設定することで、反応が改善されることがあります。56~64°Cの範囲を目安にご検討ください。